

資料

## コミュニケーション技術教育における看護学生の学び — 小グループで討論を実施した場合 —

關 戸 啓 子<sup>\*1</sup>

### はじめに

看護教育において、コミュニケーション技術を高めるための教育の必要性は言うまでもなく、多くの取り組みがなされている。長谷川<sup>1)</sup>は、最近の学生について、講義で聞いた話を実感できない、未体験のことを十分に想像できない、理論が現実と結びつけられないという傾向があると述べている。すなわち、体験的に学習する機会を設けることが必要なのである。そのため、看護学生を対象としたコミュニケーション技術教育においても、ロールプレイングを活用している報告<sup>2-5)</sup>や、模擬患者による演習を行っている報告<sup>6,7)</sup>などが多くみられる。そこで、担当している「人間関係論」の教科において、コミュニケーション技術教育として、看護学生が小グループにわかれて、意見を主張して討論するという演習を行った。今回は、この演習から学生が学んだことをレポートから抽出したので報告する。

### 研究目的

「人間関係論」の授業で実施した、小グループで討論する演習によって学生が学んだことを明らかにして、今後の授業に役立てる。

### 研究方法

#### 1. 対象とした演習

「人間関係論」の授業は、学生の興味や関心が薄れないように、毎回演習を取り入れている。授業時間の前半は講義で、後半は演習である。前半の講義で学習した内容を模擬体験できるような演習を後半の時間で行っている。演習では、毎回違った人間関係と場面を設定して学生に示している。学生は各自設定された人物になりきって、設定された場面を想定しながら会話を進める。この演習は、小グループにわかれて学生が一斉に行っている。その後、感想

や学んだことを小レポートに書いて毎回提出するという授業形態である。設定は、「親子関係」⇒「大学の友人同士」⇒「医療現場での患者・家族・医療従事者の関係」⇒「医療チーム内での人間関係」へと、身近な人間関係から徐々に臨床での人間関係に変化させている。

本研究では、「人間関係論」の最終授業で行った「医療チーム内での人間関係」を設定した演習からの学びを分析する。この回の設定は、所属部署の代表看護師として、病院職員の新しいユニフォーム検討委員会に出席しており、ユニフォームの色について各自違う色を主張するというものであった。3人グループで、色は白色・淡いピンク色・淡いブルーの3色を各自に指定した。学生には、結論は必ずしも出さなくて良いので、十分に自分の意見を主張して討論するように説明した。この演習の目的は、医療チームにおける討論の場で、自分の意見を有効に主張する方法と、チームで意見をまとめる難しさや課題を体験的に理解することである。

#### 2. 対象学生と倫理的配慮

対象学生は、2002年度に本授業を受講した看護系大学1年生70人である。本授業が全て終了し、成績評価が学生に示された後、研究の趣旨、協力は自由であり協力の有無は今後の成績に影響しないこと、プライバシーは保護すること、結果は学会・学会誌等で発表することを口頭で説明した。協力に合意した学生の小レポートを分析対象とした。68人の学生から承諾が得られた。

#### 3. 分析方法

分析は、著者が帰納的に分類しカテゴリー化した。まず、小レポートから学生が自分の学びについて書いている文章を、意味のある最小単位に区切り、1記録単位とした。次に、個々の記録単位を内容の類似性により分類してサブカテゴリーとし、さらにカテゴリーへと抽象化を行い名前をつけた。分析の信頼

\*1 徳島大学 医学部 保健学科  
(連絡先) 関戸啓子 〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学  
E-Mail: sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp

性確保のため、分析結果は教育学の研究者1名とディスカッションを行い、合意が得られるまで検討した。

### 結 果

小グループでユニフォームの色を討論する演習を行った学生の学びに関する記録単位は186あった。分析した結果、11のサブカテゴリーに分類され、2カテゴリーが形成された。(表1参照)

カテゴリーは、「意見の主張の仕方に関する学び」と「討論の仕方に関する学び」と命名した。

「意見の主張の仕方に関する学び」のカテゴリーは75記録単位を含み、4サブカテゴリーで構成された。そのサブカテゴリーは、『意見の根拠や理由の必要性』『自分の意見を主張する難しさ』『意見を固めておく必要性』『意見に自信を持つ必要性』と名付けた。

「討論の仕方に関する学び」のカテゴリーは111記録単位を含み、7サブカテゴリーで構成された。そのサブカテゴリーは、『他者の意見の尊重』『結論には総合的判断が必要』『意見の多様性の理解』『結論を出す難しさ』『相手の意見を聞く必要性』『患者中心の討論の必要性』『人間関係の大切さ』と名付けた。

### 考 察

学生は、今回の演習を通して、自分がいかにうまく意見を主張するかという、自分側からの視点に立って「意見の主張の仕方に関する学び」を得ていた。加えて、討論をより良い結論に導くためには、どうあらねばならないかという広く全体を見渡す視点から「討論の仕方に関する学び」を得ており、本演習の目的は、ほぼ達せられていると判断された。この要因として、3人という小グループであったことが考えられる。主張するよう設定された色を「ユニフォームの色にしたい」と言っているのは、各々1人ずつであり、助け船を出してくれる人はいない。また、第3者として意見をまとめてくれる人も存在していない。このような中で、意見を主張することは、学生にとって大変だったと予想されるが、学びも多かったようである。

「意見の主張の仕方に関する学び」では、ただ色を主張するだけでは誰も説得できず、意見の根拠や理由を求められることを実感していた。今回の設定は、医療チームといっても看護師だけであったが、多職種が討論を行う場合には、看護の専門職として発言に根拠が必要であり、将来につながる学びが得られたと考えられる。

自分の意見を他者に伝える難しさや、自分の意見

を整理しまとめておくという伝わりやすいということも理解できていた。これは、討論の場面だけではなく、他者に何かを報告するという場面でも共通して必要な事項である。報告が求められることの多い看護者にとって、重要な学びが得られたと思われる。また、意見に自信を持つには、その自信を裏付ける知識がなくてはならない。対象学生が1年生であることを考えると、今後の学習の動機付けとしても一助になったことが推測される。

本授業では、医療チーム内の人間関係として、演習の前に「看護チームのチームワーク」についても講義していた。本授業で使用しているテキスト<sup>8)</sup>を用い、1)互いの考えを理解し合う努力、2)看護チームの人間関係、3)考えの違いの理解、4)共通の目標の認識、5)感情的にならないで意見交換できる雰囲気確保、について説明していた。そのため、「討論の仕方に関する学び」では演習前の学習が反映して、『他者の意見の尊重』『意見の多様性の理解』『相手の意見を聞く必要性』『人間関係の大切さ』が学びとして抽出されたと考えられる。演習を通して、体験的に理解できたことが窺われる。

今回の演習で設定した討論では、学生が1年生であることから結論を出すことまでは求めていなかったが、『結論には総合的判断が必要』であることや『結論を出す難しさ』についても学習できていた。この結果から、今後は結論を出すことに意義があるような設定にする検討も必要であることがわかった。さらに、学生は『患者中心の討論の必要性』について記述していた。つまり、ユニフォームの色であっても、患者にとって何色が最も良いのかという視点で意見を言う必要があると考えているのである。これも、学生が1年生であることから、今回は予想していなかった学びであった。すでに患者中心に考えるという視点が育っていることがわかった。今後は、看護学生の患者中心という考え方を、より定着させるためにも、もっと直接的に患者のケアに関わるような設定での討論も検討する必要があることがわかった。今回は、演習の設定を説明した後、教員は何も介入しないで小グループでの討論を見守りだけであった。しかし、演習の設定がより臨床に近づくと、教員のかかわりが重要である<sup>9)</sup>といわれている。そのため、演習のなかにどのように教員が介入することがより効果的なのかも今後の検討課題である。

演習の設定は単純な内容であったが、学生はそこからチームで意見を調整する時の基本となる態度や考え方について学習できていたと考えられた。今回の結果から、今後さらに学習が深まるように演習の設定を工夫したい。

表1 コミュニケーション技術教育(小グループ討論)における看護学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー	記録単位 (学生が記述した内容)
意見の主張の仕方に関する学び <75>	意見の根拠や理由の必要性 [24]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をもって発言することが必要(8)</li> <li>・自分の意見の理由を伝える必要がある(7)</li> <li>・論理的な説明が必要(7)</li> <li>・相手を納得させるだけの知識が必要(2)</li> </ul>
	自分の意見を主張する難しさ [23]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を貫き通すことは難しい(8)</li> <li>・自分の意見を伝えることは大切だが難しい(5)</li> <li>・うまく人に意見を伝える練習が必要(4)</li> <li>・自分の意見を理解して納得してもらうことは難しい(3)</li> <li>・自分の意見を言葉にすることは難しい(3)</li> </ul>
	意見を固めておく必要性 [18]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をはっきりさせておくことが必要(6)</li> <li>・相手の意見にない自分の意見の利点が言えるようにしておくことが必要(5)</li> <li>・自分の意見を整理しておくことが必要(5)</li> <li>・自分の意見をまとめておき、わかりやすく説明することが必要(2)</li> </ul>
	意見に自信を持つ必要性 [10]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見に自信を持っておくことが必要(4)</li> <li>・自分の意見をしっかり持つことが必要(3)</li> <li>・自分の意見を主張する力も必要(3)</li> </ul>
討論の仕方に関する学び <111>	他者の意見の尊重 [40]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見ばかり主張してはいけない(13)</li> <li>・相手の意見に納得できたら、その良さを認める(9)</li> <li>・自分の意見を考え直してみることも必要(9)</li> <li>・相手の意見を受け入れた上で、自分の意見を主張する(5)</li> <li>・相手を思いやる気持ちが大切(2)</li> <li>・自分の考えを変える必要もある(2)</li> </ul>
	結論には総合的判断が必要 [29]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな意見をよく聞き、総合的に判断して結論を出すことが大切(8)</li> <li>・多様な意見があることによって最善の方法が見つかる(8)</li> <li>・自分の意見を主張しながらも、相手の意見を聞いて発言することが大切(6)</li> <li>・主張しあうばかりではなく、互いの意見を聞いて相談するという姿勢が大切(5)</li> <li>・それぞれが認め合うことで結論がでる(2)</li> </ul>
	意見の多様性の理解 [11]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな意見があることがわかった(5)</li> <li>・みんな自分の考えがある(4)</li> <li>・どの意見も納得できるところがある(2)</li> </ul>
	結論を出す難しさ [10]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論を出すのは難しい(7)</li> <li>・違う意見をまとめるのは難しい(2)</li> <li>・多数決が必要な場合もある(1)</li> </ul>
	相手の意見を聞く必要性 [8]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見に耳を傾けることが必要(5)</li> <li>・討論を意義あるものにするには他者の意見を聞くことが大切(2)</li> <li>・お互いの意見を聞くことが大切(1)</li> </ul>
	患者中心の討論の必要性 [7]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者中心に考えて意見をいうことが必要(5)</li> <li>・医療にプラスになるかを考えて意見をいうことが必要(2)</li> </ul>
	人間関係の大切さ [6]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いが意見を言える人間関係が大切(4)</li> <li>・和を保ちながら意見を言うことが大切(2)</li> </ul>

n = 68, 総件数 186件

## 結 論

「人間関係論」の教科において，コミュニケーション技術教育として小グループにわかれて，ユニフォームの色を討論する演習を行った．その演習後に学生が提出した小レポートから，学生の学びを抽出した．

- 1．学生の学びに関する記録単位は186あった．11のサブカテゴリーに分類され，2カテゴリーが形成された．2カテゴリーは，「意見の主張の仕方に関する学び」と「討論の仕方に関する学び」と命名した．
- 2．「意見の主張の仕方に関する学び」は，『意見の根拠や理由の必要性』『自分の意見を主張

する難しさ』『意見を固めておく必要性』『意見に自信を持つ必要性』のサブカテゴリーで構成された．

- 3．「討論の仕方に関する学び」は，『他者の意見の尊重』『結論には総合的判断が必要』『意見の多様性の理解』『結論を出す難しさ』『相手の意見を聞く必要性』『患者中心の討論の必要性』『人間関係の大切さ』のサブカテゴリーで構成された．
- 4．分析結果より，演習の目的はほぼ達成されていると考えられた．課題として，学生の学びをさらに深めるためには，患者ケアに関するような，より臨床的な場面設定を検討する必要性があることが示唆された．

## 文 献

- 1) 長谷川聡：演劇活動を取り入れたコミュニケーション教育．看護展望，30(12)，43-48，2005．
- 2) 久米弥寿子，小笠原知枝：ロールプレイング演習における看護学生のコミュニケーション技術に対する自己・他者評価に関連する要因．第21回日本看護科学学会学術集会講演集，108，2001．
- 3) 大下静香：コミュニケーション技術の学習に関する検討 —ロールプレイング法を導入した学習成果の分析—．日本看護研究学会雑誌，20(3)，428，2003．
- 4) 石橋通江，前田護，岩崎仁美：精神看護学におけるコミュニケーション技術教育の検討 —ロールプレイング演習を用いた教育指導の有効性について—．九州国立看護教育紀要，6(1)，35-41，2003．
- 5) 松原泰子，朝日俊彦：告知に求められる看護の役割 —ロールプレイングによる評価—．Urological Nursing，7(1)，15-21，2002．
- 6) 大池美也子，末次典恵，山本千恵子，伊東こずえ，長家智子，渡辺恭子，北原悦子，原田広枝，丸山マサ美，梅村創，寺嶋廣美：医療職教育機関における模擬患者を含むコミュニケーション教育 —平成16年度の教育実践から—．九州大学医学部保健学科紀要，5，101-112，2005．
- 7) 清水裕子：対話力を育てる模擬患者とのコミュニケーション学習．看護展望，30(12)，32-38，2005．
- 8) 藤本幸三：保健医療チームの人間関係．岡堂哲雄編，ナースのための心理学4 人間関係論入門，金子書房，東京，66-77，2000．
- 9) 高橋香織，片岡三佳，池邊敏子：精神看護場面のロールプレイング演習にビデオの振り返りを取り入れた学び．岐阜県立看護大学紀要，5(1)，41-46，2005．

(平成19年5月30日受理)

**Nursing Student's Learning from Communication Skills Training  
— Small Group Discussion —**

Keiko SEKIDO

(Accepted May 30, 2007)

Key words : nursing student's learning, communication skills, small group discussion

Correspondence to : Keiko SEKIDO

Major in Nursing, School of Health Sciences

The University of Tokushima

Tokushima, 770-8509, Japan

E-Mail: [sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp](mailto:sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.17, No.1, 2007 237-241)